

■発行／南方熊楠顕彰会

〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913  
http://www.minakata.org/ 〈E-mail〉minakata@mb.aikis.or.jp

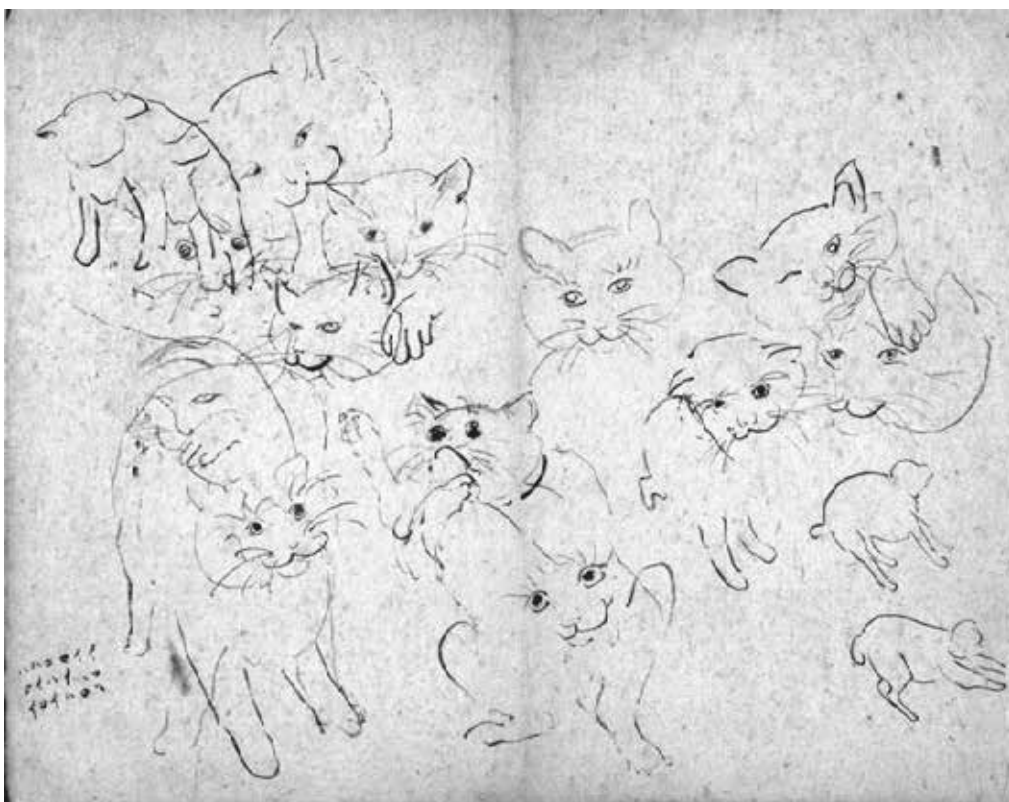
自筆資料に見る南方熊楠……………⑨

## 熊楠の猫の絵

文／志村真幸（京都外国語大学非常勤講師・南方熊楠研究奨励事業第一回助成研究者）

ここに示したのは熊楠が描いた猫の百面相である。南方熊楠顕彰館に自筆資料として伝わるものだが、いつごろ何のために描かれたのかはわかっていない。熊楠は大の猫好きであり、ロンドン時代には野良猫に餌をやっていたし、帰国後には田辺で何匹も飼った。猫は代々「チョコ六」と名付けられたという。しかし、可愛がってばかりではなく、1915年8月25日の日記に「黒猫入来り、予追う、昨日より予の宅辺を彷徨す」とあるように、冷たく追いはらうこともあった。熊楠自身が猫のように気まぐれだったのである。

熊楠はいくつも猫の絵を残しているのだが、いずれも愛嬌のあるでっぱりとした姿である。この絵も堂々とした体躯のものばかりだ。伸びをしているもの、飛びかかろうとしているもの、ちょっとおびえたように腰の引けているもの、耳を伏せてしょ



んぼりしたものと、さまざまな姿が描かれ、熊楠が熱心に猫を観察していたことが伝わってくる。ちなみに尾は短く描かれ、日本猫の特徴をあらわしている。日本では、長い尾は蛇のようだとか、老いと尾が裂けて猫又になるとか言って嫌がられ、江戸時代中期頃から短尾の猫が主流になったのである。

熊楠はイギリスの雑誌『ノーツ・アンド・クエリーズ』誌に発表した英文論考のなかでもしばしば猫を取り上げている。1916年3月25日号に出た「猫のフォークロア」は、前年9月4日号に出たアッカーマンの質問に答え、日本の猫の俗信を紹介したものである。熊楠が力を入れて回答したのは、「トータス・シェル・キャットはすべて雌というのは本当か」という質問に対してであった。トータス・シェル・キャットとは三毛猫のことである（トータス・シェル＝鼈甲が三毛猫の模様と似ていると考えられたため）。三毛猫は日本原産とされ、イギリスでは珍種として可愛がられているため、熊楠も張り切ったのであろう。質問には「日本ではごく稀に三毛猫の雄がいる」と答えており、このことは現代科学でも、猫の毛の色を決定する遺伝子の関係で三毛猫のほとんどは雌であるが、三万匹に一匹程度、雄が生まれると計算されている。さらに熊楠は日本の船乗りが三毛猫の雄を珍重し、何千両も出して買い求め、船に乗せる習慣にも触れ、それは「三毛猫の雄が帆柱に登るのは嵐の前兆となるからだ」と述べている。

この風習は現代にも残っており、日本の第一次南極探検隊にもタケシという三毛猫の雄が同行したことで知られる。

『ノーツ・アンド・クエリーズ』誌はこのような気軽な質疑応答の雑誌であり、そのなかで熊楠は日本の不思議な風習を世界に発信していたのであった。

## CONTENTS

第21回南方熊楠賞 授賞式	… 2
南方熊楠賞受賞記念講演 河野昭一	… 3
第12回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 野本 亮	…16
第13回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 広川英一郎	…26
第13回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 辻 晶子	…30
第14回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 玉井済夫	…35
「熊楠」生物覚え書⑭ 土永知子	…41
南方熊楠「日光山記行」を歩く 郷間秀夫	…43
書簡の杜(五) 岸本昌也	…44
南方熊楠の伝記を正す(四) 中瀬喜陽	…46
熊楠メモランダム《2》 志村真幸	…48
平成23年度南方熊楠研究奨励事業 助成研究決定	…49
書評・書籍紹介 奥山直司 岩上はる子 田村義也 松居竜五	…50
寄稿「耳塚」論争 橋爪博幸	…54
科博Report 岩崎 仁	…55
第8回南方熊楠ゼミナールのごあんない	…56